

施策評価調書

1 施策の概要

(1)	施策名	青少年の居場所づくり					
(2)	総合計画の体系	第 4 章	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり				
		第 1 節	学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり				
		第 40 細節	青少年の居場所づくり				
(3)	事業費など (単位:千円)	項目\年度(平成)		26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額	
		事業費(A)		107,124	110,332	131,333	
		従事職員数		10.45 人	10.45 人	10.45 人	
		所要人件費(B)		83,048	87,280	85,377	
		総事業費(A+B)		190,172	197,612	216,710	
		財源内訳	収入	国庫支出金	0	0	0
				府支出金	3,475	3,454	3,817
				その他	3,309	3,322	2,761
			市負担	地方債	0	0	0
				その他	0	0	0
一般財源	183,388			190,836	210,132		

2 評価の指標(施策に係る成果指標)

指標項目		項目\年度(平成)	26年度実績	27年度実績	28年度計画
指標内容	青少年クリエイティブセンター施設利用者数	目標値 (単位:人)	73,000.00	73,000.00	73,000.00
		実績値 (単位:人)	63,854.00	58,887.00	
目標値の積算方法	平成12年度実績(55,213人)に対して20%増加	達成度(%)	87.5	80.7	
指標内容	自然体験交流センター施設利用者数	目標値 (単位:人)	37,000.00	37,000.00	40,000.00
		実績値 (単位:人)	41,050.00	43,872.00	
目標値の積算方法	平成20年3月末現在の5歳から24歳までの人口計70,215人の約半分35,200人に5%増加を見込んだもの	達成度(%)	111.0	118.6	

3 施策の点検(施策を進めるうえでの課題)

青少年施設では、それぞれが特色ある独自の取り組みをしており、甲乙つけがたい。利用者には選択肢が多いというメリットはあるが、コストの面からは対象や目的が重複した事業がないかなどの点検が必要である。こどもプラザ事業などについては地域や学校、家庭等の協力を得ながら実施。国の放課後こども総合プランの掲げる目標を一定満たしており、太陽の広場については、全国的な実施率が5割にとどまる中、市内全36小学校で実施している。実施回数については、地域の実情に合わせて実施しており差はあるが、放課後の居場所づくりを事業者に委ねるのではなく、地域のボランティアが「地域の子どもは地域で守り、育てる」という理念のもと取り組んでいる点が吹田の特色である。

4 施策の評価

次年度の優先順位	施策を構成する事務事業名	室課名	事業番号	市単独事業区分	施策への貢献度	各視点からの評価 (20 → 4) 高 → 低						今後の方向性 (実施計画)
						妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	合計	
1	青少年クリエイティブセンター施設運営事業	青少年室青少年クリエイティブセンター	01004	全部	大	18	18	20	20	20	96	継続
2	非行防止・環境整備事業	青少年室	00996	全部	大	20	18	16	20	16	90	継続
3	こどもプラザ事業	青少年室	00999	一部	大	16	20	16	18	18	88	拡充
4	青少年活動サポートプラザ施設運営事業	青少年室	01006	全部	大	18	16	18	18	18	88	継続
5	少年自然の家施設管理事業	青少年室少年自然の家	01105	全部	大	18	16	16	20	18	88	継続
6	少年自然の家改修計画事業	青少年室少年自然の家	01352	全部	大	16	14	16	18	16	80	継続
7											0	
8											0	
9											0	
10											0	
11											0	
12											0	
13											0	
14											0	
優先順位をつけるにあたっての考え方												